

# 消防署 だより

松前消防署 ☎ 984-3404

## 東日本大震災から1年

東日本大震災から1年。これを機に、改めて防災について考えてみましょう。

今月は、震災に遭った東北地区の岩手県宮古地区広域行政組合消防本部、二戸地区広域行政事務組合消防本部、大船渡消防本部に協力いただき、質疑応答をまとめました。皆さんの防災に対する危機意識の向上に繋げていただければ幸いです。

### ■所属している管轄内での被害状況

《宮古》 ・地震被害…なし

・津波被害…死者1045人、不明者352人(23年9月26日現在)

・火災被害…建物火災6件、その他火災1件、林野火災2件、合計9件

《二戸》 ・内陸部ということで、人的被害はなし。

《大船渡》 ・地震被害…なし

・津波被害…死者351人、不明者87人(24年1月30日現在)

・火災被害…なし

### ■震災前と後で、住民や消防職員の防災意識の変化

・防波堤が整備されていることで安心していただけというわけではないが、それを頼りにしていたことは事実。地震があつたらまず津波を考え、高台へ避難するということを再認識させられた。(宮古)

・学校や事業所などの避難訓練では、地震を想定した避難訓練が多くなった。(二戸)

・昔から「津波でんでんこ」という言い伝えがあり、「津波は早い。津波が来たら、とにかく逃げろ」と語り継がれていた。しかし、今回の津波は想像以上の大きさであったことや、「ここまで逃げれば大丈夫だろう」という根拠のない安心感から、多くの犠牲者が発生。今回の津波により防波堤、防潮堤はすべて破壊され、修復されていないままであり、再び津波が発生すれば今回以上の被害が予想されることから、以前より津波への危機意識は高まっている。(大船渡)

### ■防災グッズの中で役立つもの、あった方がいいもの

・時期によるが、暖房器具の燃料などを常備しておくことも、防寒対策の一つになるのではないか。(宮古)

・ライフラインが寸断された中、携帯電話の充電、懐中電灯の電池、ラジオの電池などが不足し、太陽光発電を使用し充電できるものが非常に役に立った。外出先での被災も考え、防災グッズを家の中だけでなく、車の中に入れておくのもいいと思う。(二戸)

・ファンヒーターや電化製品は停電時には使えず、「反射式石油ストーブ」が活躍した。暖房の他にもお湯を沸かしたり、料理に使用したりできた。携帯電話のワンセグ情報は電池の消耗が早く使えなかったため、カーナビを利用する人が多かった。(大船渡)

春季全国  
火災予防運動

### 消したはず 決めつけしないで もう一度

平成23年度全国統一標語

3月1日(木)から3月7日(水)まで、春の全国火災予防運動が実施されます。

#### 製品火災の発生防止

私たちの暮らしに欠かせない電化製品。正しく使えば便利で役に立つものばかりですが、定格電流を超えていたり、誤った使い方をしていたりすると、思わぬ事故や火災につながる可能性があります。電化製品から異音がする、焦げたような臭いがする、突

然電源が切れるなどといった現象が見られた場合には、ただちに使用を中止し、購入店舗またはメーカーに問い合わせてください。

ほんのわずかな異常でも使用を中止し、安易に使用することのないようご協力をお願いします。